

アジアやアフリカに渡航される方へ

イヌからだけとは限らない

狂犬病から身を守るために

～死亡率が高い狂犬病、あなたの渡航先は大丈夫？～



医療機関名

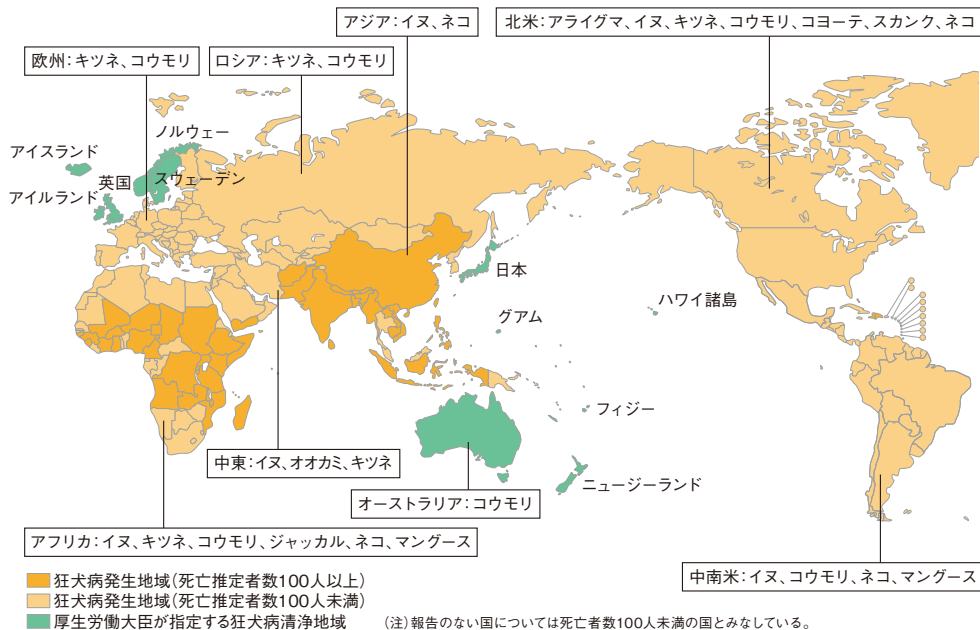
編集協力:大分大学医学部 微生物学講座 教授 西園 晃 先生

グラクソ・スミスクライン株式会社

狂犬病に感染する可能性がある国はどこですか？

- 狂犬病は日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドなどの一部の国と地域を除き、**世界中で感染する可能性のある病気**です¹⁾。
- 世界保健機関 (WHO) の推計によると、世界では**年間におおよそ5~6万人が亡くなっています**。また、このうち**3万人以上はアジア地域**で亡くなっています²⁾。
- 日本ではこの40年の間に国内感染例を認めていませんが、1970年にネパールで1人、2006年にフィリピンで2人、合計3例の輸入症例 (国外で感染して、帰国後発病した例) が報告されています。いずれもイヌに噛まれたことによる感染であり、狂犬病ワクチンの接種が行われておらず、亡くなっています³⁾。

世界の狂犬病発生状況



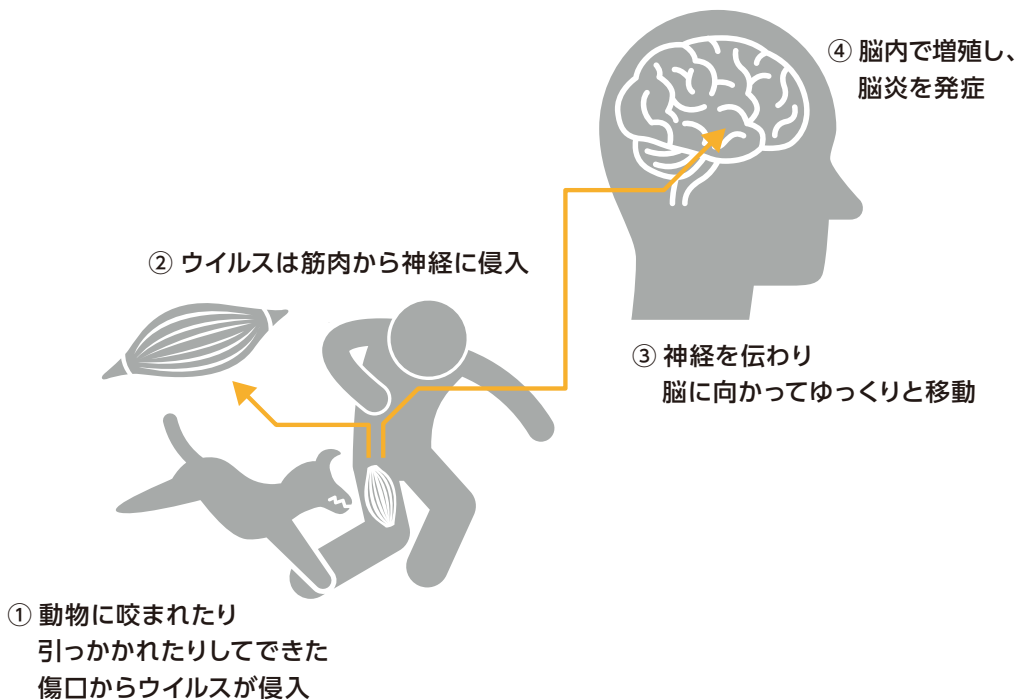
WHO Weekly epidemiological record 15 JANUARY 2016, 91th YEAR 厚生労働省健康局結核感染症課 (2016年6月28日作成)
[<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/pdf/03.pdf>, 2021年9月22日確認]
厚生労働省 狂犬病 [<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/>, 2021年9月22日確認]
厚生労働省 狂犬病に関するQ&Aについて [<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/07.html>, 2021年9月22日確認]
より作成

海外のほとんどの国で狂犬病に感染する可能性があります。
特にアジア、アフリカでリスクが高いため注意が必要です。

狂犬病とはどのような病気ですか？

- 狂犬病は、狂犬病にかかった動物に咬まれたり傷口をなめられたりすることで感染し、**発病するとほぼ100%死亡する**⁴⁾、危険な病気です。
- イヌが主な感染動物ですが、ネコやコウモリなどの哺乳類からも感染するため⁵⁾、森林にいる野生動物などにも気をつける必要があります。
- 狂犬病は感染してもすぐに症状がでないことが多く、発病まで通常は1〜3か月とされています。まれに1年以上経って発病することもあります⁵⁾。

狂犬病を発病するまで



伊藤直人, 杉山 誠: ウイルス, 2007; 57(2): 191-198. より作成

**狂犬病は発病するとほぼ100%死亡し、
有効な治療法のない病気です。**

狂犬病の対策にはどのようなものがありますか？

治療法

- 狂犬病は発病してしまうと、効果的な治療法はありません。

狂犬病の動物と接触してしまったら？

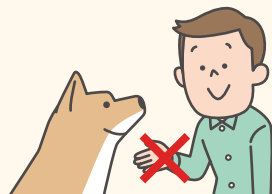
- 狂犬病の疑いのある動物に咬まれたり、傷口をなめられた場合、すぐに石けんと流水で傷口をよく洗い、消毒液で消毒してください。約15分間洗い続けることがすすめられています⁶⁾。
- **できるだけ早く**現地の医療機関を受診し、傷の手当てと**狂犬病ワクチンの接種を受けましょう（曝露後接種）**。
- 接触の程度によって、狂犬病ウイルスに曝露した国や地域で免疫グロブリン*が投与されることがあります。



*免疫グロブリンは日本国内では承認されていません。

動物と接触する前にできることは？

- むやみに動物に近づいたり触れたりしないようにしましょう。
- 動物と接触する可能性の高い人は、**事前に狂犬病ワクチンを接種すること（曝露前接種）が対策の基本**です。



- ✓ 曝露前接種が完了している人でも、動物に咬まれたり、傷口をなめられた場合に狂犬病ワクチンの接種は必要ですが、曝露前接種を受けていない人と比べて**少ない接種回数ですみます**。
- ✓ 曝露前接種が完了している人は、動物に咬まれたり、傷口をなめられても、**免疫グロブリンの投与が必要ありません^{7,8)}**。

狂犬病の予防接種（曝露前接種）は、どのような国や地域に行く人に推奨されますか？

- 厚生労働省検疫所（FORTH）のWebサイトでは、海外渡航で検討する予防接種の目安として、以下のように紹介されています。
- 1か月以上の滞在者、滞在期間にかかわらず動物と接触する機会の多い方、奥地・秘境などへの渡航ですぐに医療機関にかかることのできない方は、狂犬病の予防接種が推奨されています。

地域	短期滞在						冒険旅行および長期滞在（1か月以上）												
	黄熱	A型肝炎	髄膜炎菌	風しん	麻疹	水痘	インフルエンザ	黄熱	A型肝炎	B型肝炎	ポリオ	狂犬病	日本脳炎	髄膜炎菌	風しん	麻疹	水痘	インフルエンザ	破傷風
北アメリカ				◎	○	○									◎	○	○	○	○
カリブ		○		◎	○	○		○	○			△			◎	○	○	○	○
中央アメリカ、南アメリカ	●	○		◎	○	○	●	◎	○			△			◎	○	○	○	○
中央アジア		○		◎	○	○		◎	○			△			◎	○	○	○	○
東アジア、東南アジア		○		◎	○	○		◎	○			△	○		◎	○	○	○	○
南アジア		○		◎	○	○		◎	○	○		△	○		◎	○	○	○	○
西アジア		○		◎	○	○		◎	○	○		△		○	◎	○	○	○	○
豪州・ニュージーランド				◎	○	○									◎	○	○	○	○
メラネシア、ミクロネシア、ポリネシア		○		◎	○	○		○	○			△			◎	○	○	○	○
北アフリカ	▲	○		◎	○	○	▲	◎	○			△		○	◎	○	○	○	○
東アフリカ、中央アフリカ	●	○		◎	○	○	●	◎	○	○		△		○	◎	○	○	○	○
西アフリカ	●	○	○	◎	○	○	●	◎	○	○		△		◎	◎	○	○	○	○
南アフリカ		○		◎	○	○		◎	○			△			◎	○	○	○	○
北ヨーロッパ、西ヨーロッパ				◎	○	○									◎	○	○	○	○
東ヨーロッパ、南ヨーロッパ				◎	○	○		○	○			△			◎	○	○	○	○

●：黄熱に感染するリスクがある地域に渡航する場合は予防接種が必要 ▲：北アフリカのうちスーダン南部に渡航する場合は予防接種が必要
 ◎：渡航前の予防接種をお勧めしています ○：局地的な発生があるなど、リスクがある場合には接種を検討してください
 △：ワクチンの供給が限られているので、入手可能であれば、接種を検討してください
 ※麻疹、風しん、水痘、インフルエンザ、破傷風は渡航先にかかわらず、必要な方には予防接種をお勧めしています

狂犬病の予防接種（曝露前接種）は、どのような人に推奨されますか？

短期の渡航であっても、以下のような場合は接種が推奨されます。

動物と接触する仕事の人

- 獣医や研究者など、イヌ、ネコ、コウモリ、野生動物と接触する機会が多いと、感染のリスクが高まります。

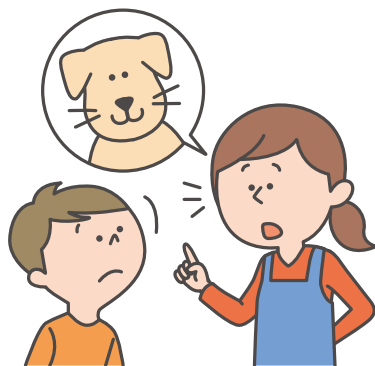
アウトドアで動物に接触する可能性のある旅行者

- 郊外でのアウトドアの活動が多い場合や、コウモリがいる洞窟に行く場合は、すぐに適切な処置を受けられない可能性があります。



子ども

- 子どもは体が小さいため、手や顔の周辺、頭などを咬まれやすく、狂犬病の症状を発病するまでの期間が短くなります。
- 子どもはイヌや野生動物への興味が強く、動物に咬まれたり触れたりしても、親に報告しないことがあります。事前に、動物にはむやみに近づかないこと、咬まれたり引っかけられたりした場合は石けんと流水でよく洗い、親にきちんと伝えることを話しておきましょう。



1) WHO.: WHO Expert Consultation on Rabies, Third report, p4, World Health Organization, 2018.
2) Hampson K, et al.: PLoS Negl Trop Dis. 2015; 9(4): e0003709.
3) 厚生労働省 狂犬病 [https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/, 2021年9月22日確認]
4) Fooks AR, et al.: Lancet. 2014; 384(9951): 1389-1399.
5) 厚生労働省 狂犬病に関するQ&Aについて [https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/07.html, 2021年9月22日確認]
6) WHO.: WHO Expert Consultation on Rabies, Third report, p155, World Health Organization, 2018.
7) WHO.: Wkly Epidemiol Rec. 2018; 93(16): 201-220.
8) ACIP.: MMWR Recomm Rep. 2008; 57(RR-3): 1-28 and CE1-CE4.